

# 特集 1 ふるさと文学の振興

## ふるさと文学に親しみ学ぼう 高志の国文学館が開館

美しく豊かな自然や風土の中で育まれてきた  
富山県ゆかりのふるさと文学。  
その魅力を再認識し、継承、発展させていくため、  
県では、7月に開館する高志の国文学館を活用し、  
誰もが気軽にふるさと文学に親しみ学ぼうことができるよう取り組んでいきます。



高志の国文学館(7月6日開館)

県では、この文学館を活用し、引き続き、貴重な文学資料の収集・保存に取り組みます。さらに、多彩な企画展やゆかりの地の散策ツアーなどを行い、ふるさと文学の魅力を県内外に発信していきます。

### ふるさと文学の魅力を次の世代へ

ふるさとの歴史や文化などに理解を深めることは、地域の活性化や人材育成の面でも大切です。県では、次の時代を担う子どもたちが、ふるさとに誇りや愛着を持ちながら、富山や日本の未来を築く人材に育つよう、今後もふるさと文学の振興に取り組んでいきます。

- 富山県ゆかりの主な作家  
堀田善衛、角川源義、源氏鶏太、木崎さと子など
- 富山を舞台とした主な文学作品  
宮本 輝「螢川」  
柏原兵三「長い道」  
新田次郎「劔岳 点の記」など

### 富山県ゆかりのふるさと文学

古くは奈良時代、大伴家持が、万葉集で223首もの越中ゆかりの歌を詠んで以来、富山の雄大で美しく、厳しくもある自然と風土から、多くの優れた作家や多彩な文学作品が生み出されてきました。県では、これらのふるさと文学を、郷土の歴史や文化を再認識し、継承・発展させて

いくための県民共有の大切な財産と考え、誰もがふるさと文学に親しむことができる環境づくりを進めています。

### 高志の国文学館の開館

今年7月、ふるさと文学の振興の拠点として、高志の国文学館が開館します。館内では、富山県ゆかりの作家や文学作品のほか、映画や漫画、アニメなど幅広い作品を紹介いたします。また、親子がのびのびと文学や絵本などに親しめるスペースを設けるなど、子どもから大人まで、気軽に楽しめる何度でも行きたくなるような施設をめざします。

## 高志の国文学館

※P4に企画展等、関連記事

### 【主な取組み】

#### ●ふるさと文学の総合窓口としての役割

- 富山県ゆかりの作家、作品の魅力をわかりやすく紹介
- 図書館、博物館など既存施設と連携し、ふるさと文学の魅力を発信

#### ●気軽に楽しみ学ぶ機会の提供

- 純粋な文学のほか、絵本、映画、漫画、アニメなども楽しめる場
- 社会教育、学校教育、家庭教育に対応した学習資源・機会の提供

#### ●深く調べる・発表する・創作への刺激ともなる場の提供

- 県内の文学資料のデータベース化
- 文学のみならず幅広い文化活動の発表・交流の場の提供
- 演劇、音楽、美術など異分野との交流による創作への刺激となる活動

### 【施設の概要】

#### ▼ ふるさと文学の回廊



常設展示／ゆかりの文学者  
富山県ゆかりの文学者をパネルで紹介。直筆原稿や愛用品なども展示します。

#### ▼ ふるさと文学の蔵



常設展示／万葉とばし  
立山連峰をイメージしたオブジェに、家持と現代人が語り合うシルエットや家持が詠んだ歌と富山の景色を投影し、越中万葉の素晴らしさを体験できます。周囲には「万葉集」の貴重な資料のほか膨大な蔵書を展示します。

#### ▼ 企画展示の蔵



企画展示／自主企画展や巡回展などさまざまな展覧会を開催します。

#### 館内にレストランも同時オープン!

人気シェフ、落合務氏が手掛けるレストランで、富山の食材を活かした美味しいイタリア料理も楽しめます。



常設展示／漫画・アニメ、ヘルン文庫、越中の先人パネルや作品原画、愛用品、創作ノートなどを展示。また、体験型展示ソフト(不思議の本)で、漫画やアニメの原理、制作工程などを楽しく学べます。

## Interview



### 文学館の開館に寄せて

高志の国文学館 館長 中西 進さん

館名の「高志」とは、古来北陸一帯を越(高志)の国と称したことになんていいます。高志の表現は古く「古事記」に登場します。本館は、その伝統を尊ぶとともに、高い志を県民全体が共有することを願っています。

本館は、高志の国ゆかりの文学資料を収集、展示しようとしています。ジャンルにこだわらず、広く文化の一環として文学を捉える文学館でありたいと思っています。たとえば本館のアドバイザー

の篠田正浩監督が、映画を「日本語の語法で撮りたい」と主張しておられるように、映像もひとつのことばです。

幸い富山県は、堀田善衛をはじめ数多くの現代作家を生んでおり、また、深い関わりを持つ芸術家も枚挙にいとまがありません。本館では、県民の皆さんにこれらふるさとの証言として学び取っていただくとともに、広く国内外の方々が生き方を学ぶ一助として来館くださることを期待しています。